

2025/4/29

中間支援機能に関する研究会

1. 事業名

仙台・宮城グリーフサポート・ネットワーク構築支援事業

（東日本大震災被災地の市民活動団体のネットワーク強化プログラム

協力：武田薬品工業株式会社）

2. 事業の目的

- ・仙台市内～宮城県内でグリーフケア（グリーフサポート）に関わる活動をしている団体間で、互いに顔の見える関係をつくる。（実践団体ネットワーク）
- ・グリーフケア（グリーフサポート）に関わる機関＝医療（病院、訪問医療、医師会等）、福祉（地域包括、訪問介護、デイサービス等）、葬儀業界、生命保険業界等、を広報先として位置づけ、実践団体ネットワークとのつながりをつくる。
- ・現在、特に医療側から見て、終末期医療（ターミナルケア）までで支援が終わってしまっている課題を、市民活動（グリーフサポート）と連結することで、切れ目のない支援につなげる。

3. 事業の背景（なぜ、グリーフケア・グリーフサポートか）

- ・家族など大切な方との死別、喪失による心身の不安定さ（グリーフ）を抱えた方への寄り添い・援助を行うグリーフケア（グリーフサポート）。
- ・仙台は、2003年に仙台市立病院のスタッフや仙台市民が立ち上げた「仙台グリーフケア研究会」が、自死・病死・事故死・災害等で大切な人を亡くしたすべての方を対象とする「わかちあいの会」を開催。2010年度からは遺児を対象としたプログラムを展開するなど全国的にも先進的な位置づけ。
- ・東日本大震災後もこの基盤を活かした活動を展開。宮城県内各地にグリーフケアの動きが波及。
- ・これらの取り組みが相互に連携し、すきまのないサポートを地域で展開していくために、今後、活動間のネットワーク化が強い基盤になっていくと想定される。

4. ネットワーク構築の核となる動きについて

仙台・宮城グリーフケアのマップを作ろうの会

2024年4月、発起人3名（医療関係者、学識経験者、市民活動実践者）で設立。

賛同団体と連携して、グリーフケア（グリーフサポート）の広報活動をされようとしていた。

会の目的 ・地域でグリーフサポートを行っている団体・個人の活動が、必要としている人

に届くよう支援すること

- ・本会参加者の交流や情報共有により活動の質を向上させること
- 会員 ・グリーンサポートの活動実践者 ・本活動を支援したい者
- ・グリーン、グリーンサポートに興味ある者
- 賛同団体（事業開始時）

グリーンケアに関わる市民団体／医療機関／福祉機関／大学・研究機関 計 17 団体・機関

5. 事業実施内容

①「仙台・宮城グリーンケアのマップを作ろうの会」との連携構築（2024/06～2025/03）

定期的なオンラインミーティングや、会代表との対面打ち合わせ・メール等による情報交換を行い連携関係を構築し、事業進捗を共有した。

②「仙台・宮城グリーンサポートマップ」制作・配布（2024/07～2025/03）

【資料 1】

賛同団体の中から掲載に賛同が得られた 13 の活動について、活動場所のマップと一緒にまとめたリーフレット（A4 4C 両面 三つ折り）を 10,000 部製作し配布した。支援団体、当事者団体、医療機関、宗教団体等、多様な主体による取り組みをつなぎ、紹介することができた。配布方法も賛同団体のネットワークを活かし、地域の様々な場所で手に取ることができるように工夫した。



<掲載団体・活動>

- NPO 法人仙台グリーンケア研究会／一般社団法人日本グリーンケア協会／りぼんむすびの会／
- グリーンサロンほっとぱーく／こもれびの会／哀しみを癒すサロン and new you／
- 流産・死産・新生児の子どもを亡くした家族の会 With ゆう／NPO 法人アンドブライツ／
- 病気で子どもを亡くしたママのピアサポートグループ空の輪～lien～
- 東北大学病院緩和ケア病棟遺族会／岡部医院仙台遺族外来／
- 東北臨床宗教師会宗教者による電話相談／東北自死・自殺相談センターとうほく Sotto

<マップの配布方法・配布先の例（賛同団体からの聞き取りによる）>

- ・分かち合いの会参加者へ配布、団体メンバーに配布

- ・公共施設（青葉山公園、せんだいメディアテーク、仙台市市民活動サポートセンター、みやぎ NPO プラザ、エルパーク仙台）
- ・臨床宗教師会、曹洞宗の宮城県宗務所所報に同封（県内の曹洞宗寺院約 400 か寺）
- ・行政（仙台市健康福祉局保険高齢部地域包括ケア推進課、石巻市）
- ・関係団体 社会福祉協議会（県内 36）、地域包括支援センター（県内 123）、仙台市市民センター（仙台市内 58）、がん相談支援センター・がん相談窓口（県内 42）、NPO 団体等（40）
- ・医療機関 東北大学病院緩和ケア病棟ラウンジ、東北大学病院小児科、東北大学病院緩和ケアセンター、東北大学病院がん相談室、宮城県がんセンター、岡部医院仙台、仙台市立病院医療相談室（産婦人科医）、スペルマン病院ホスピス、訪問看護ステーション
- ・医療従事者向け研修会（ELNEC-J コアカリキュラム 喪失・悲嘆・死別）で配布
- ・葬祭会館、仏具店
- ・地域の店舗等（COOP、美容室、カフェ、鍵屋など）
- ・小学校保健室、教員、カウンセラー

さらに普及を進めるため、リーフレットと同じ内容をホームページにも掲載し、メールや SNS 等による広報でも活用できるようにした。

ホームページ <https://sitesmadewith.wixsite.com/griefsupportmap>

事業期間内に、1 団体、追加でマップに掲載したいという申し出をいただき、次年度予定の改定に活かすこととした。

追加団体 みやぎ・せんだい不妊・不育専門相談事業 グリーフケア相談
（宮城県、仙台市、東北大学病院所属心理士、医師による）

③「仙台・宮城グリーフサポートマップ完成記念講演会」開催（2024/11/10） 【資料 2】【資料 3】

今後グリーフケアに関わって欲しい医療関係者・専門職・行政等に『仙台・宮城グリーフサポートマップ』について知っていただくための講演会を開催した。事前に在仙メディアへの告知を集中的に行った成果として、新聞 3 紙（読売新聞、朝日新聞、河北新報）に活動の紹介を掲載いただくことができた。

日時 2024 年 11 月 10 日（日）14：00～16：00

会場 仙台市医師会館 2 階ホール（宮城県仙台市若林区舟丁 64-12）

参加 80 名（医療関係者、福祉関係者、NPO・市民活動団体関係者等）

内容 1. 開会 青山真帆（山形県立保健医療大学老年看護学領域教授）

2. グリーフケア／グリーフサポートの活動報告

佐藤悠子 「グリーフケアのマップを作ろうの会」

「ライフカフェ」（自分自身の死生観や人生観を深める場所づくり）

佐藤由佳 「流産・死産・新生児の子どもを亡くした家族の会 With ゆう」

橋本真由美 「りぼんむすびの会」

（がんにより在宅で大切な方を亡くした家族の会）

していくことを確認していくために勉強会・総会を開催した。総会での議論の結果、ネットワークの対象エリアを東北に広げ、名称を「東北グリーフサポート」に変更して活動を継続していくことが確認された。

日時 2025年3月2日(日) 14:00~16:00

場所 せんだいメディアテーク 7階会議室 (宮城県仙台市青葉区春日町 2-1)

参加 15名(サポートマップ掲載団体、今後掲載を希望する団体の関係者等)

内容 1. 開会 佐藤悠子(岡部医院仙台)

2. 勉強会

(1) 活動報告

岡田美香(哀しみを癒すサロン and new you)

「死別の哀しみをわかちあう会」

木島祐子(一般社団法人日本グリーフケア協会特級アドバイザー、
精神看護専門看護師)

「悲嘆回復ワークショップの活動報告」

(2) 話題提供

青山真帆(山形県立保健医療大学老年看護学領域教授)

「グリーフに関する知見アップデート」

- ・遺族の精神的な健康とグリーフ・グリーフケアの定義
- ・病的な悲嘆・遺族の健康リスク
- ・グリーフケアの実際

3. 総会



総会の様子

6. 活動の成果とネットワーキングのポイント

当初計画通りに事業が進捗し、事業期間内にグリーフサポートに関わる団体・機関のネットワーク「東北グリーフサポート」の設立まで到達することができた。メディアによる伴走も継続され、情報発信も十分に行うことができた。〔資料5〕

そのプロセスの中で、次年度以降の資金調達等について関係者と継続的に協議した。その結果、会員による補助金(医療系)獲得など、資金調達の動きも起こり、活動自走に向けた後押しをすることができた。2025年度も6月の市民向け啓発イベントを皮切りに活動が継続していく予定である。

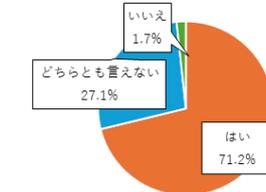
本支援事業で制作したグリーフサポートマップについては、完成記念講演会時のアンケートと、賛同団体へのヒアリングでその反応を確認した。双方の結果から、一定の普及啓発効果があったことが確認でき、こうしたネットワークの活動の必要性を裏付けることができたと考えている。

マップ完成記念講演会 アンケート結果

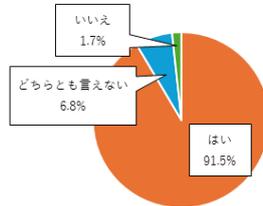
背景 (n=69)

	n	%
年齢 (歳)		
20-29	1	1.8
30-39	6	10.5
40-49	13	22.8
50-59	15	26.3
60-69	10	17.5
70-79	12	21.1
居住地		
仙台市	42	79.3
宮城県内	9	17.0
宮城県外	2	3.8
グリーフケアを受けた経験		
あり	12	20.3
なし	47	79.7

今後、必要な時には、マップで紹介しているような場でのグリーフケアを受けたいと思いますか？



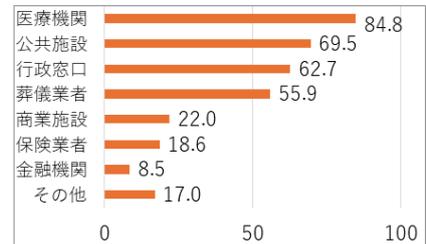
あなたのまわりの方に、グリーフサポートマップを紹介したいと思いますか？



マップを紹介する望ましいタイミングは？



マップを配布するのに望ましいと思う場所は？



<マップへの反応>

- ・こういった支える会があるのかと驚かれた方が多くいた。
- ・たくさんの人に知ってもらいたいという方が多くいた。中にはどこに置いてもらえるか考えて探してくれた方も。
- ・近くに必要としている方がいたら教えてあげたいという方が多くいた。
- ・県内でそれぞれ活動していた団体がまとまって一覧できることは必要な方にとっては自分で探す心身の労力が減りとてもいい。
- ・参加者、問い合わせが増えた。
- ・マップを渡した方のご家族で司法書士の方がいて、相続問題からグリーフに関する相談先がないかよく聞かれ困っていたそうでとてもマップ喜ばれました。同じ業界の方にも困っている方がいるとのこと。
- ・ペットロスの会がないか聞かれた。
- ・死別後のご家族が気になっていても、地域にどのようなサポート体制があるのか分からなかったが、mapを紹介できる安心感がある（医療従事者）。

このようなネットワークは、一定規模の人口集中があり、活動団体も多い仙台市を含むエリアだからこそ展開できたという側面もある。そこで、ネットワーク設立のプロセスの中で、宮城県の隣接県へのネットワークの拡大（染み出し）の必要性について、関係者に訴え、理解を得ることができた。また当該県のNPO支援組織等への協力依頼についても併せて実施したところである。

本支援事業で展開したネットワーキングが一定の成果を得た理由として、以下のような要素があったと考えている。すべての活動分野でこのような条件がそろえることは稀なことであるかもしれないが、NPO支援組織がこ

のような取り組みを進める際の参考になればと考え、整理したものである。

①共感・賛同を呼ぶテーマ設定「グリーフケア／グリーフサポート」

震災・原発事故、高齢化・多死、孤独・孤立といったコンテキストの中で、活動の必要性の理解が広まりやすかった。

②ステークホルダーの広がり 生命に共通の「死」というテーマ

当事者による活動に加え、医療・福祉、葬儀、宗教、ペット・・・と支援側の広がりが見込まれる。また関係する専門職（集団）の動きもあったことから、市民活動＋専門家ネットワークの社会貢献という2つのエンジンを持ったネットワークになっていく可能性もある。

③タイミングの問題

もともと仙台市がグリーフケア・グリーフサポートの先進的な活動地域であったという背景があった。そこに東日本大震災という大きな社会的インパクトがあり活動が大きく展開、その活動が一段落して転換点に入っていたポイントで今回のネットワーキングの動きが出たという時間軸である。他のタイミングでネットワーキングを呼び掛けた場合、また違った結果になっていったと思われる。

④コアメンバーの設定（伴走支援者と当事者の関係）

今回の事業は、多分野の専門家（医療・現場、医療・研究、葬儀業界）による動きがあったところにNPO支援組織が関わりネットワークが始動、そこに当事者（団体）が参加するという建付けになった。当事者発のネットワークも可能性としてはあるが、今回の事業の中でも当事者性が強い団体ほど、ネットワーキングに慎重な傾向が見られた。ましてやネットワークを主導していく立ち位置になることは、難しい場合も多いと想定される。専門家による社会講演活動やNPO支援のような伴走支援型の支援者がネットワークの核になるということが、1つのモデルとして見出されたと考えている。

7. 今後の展開

上述の通り、本事業で形成したネットワークを基盤として、宮城県内およびその隣県の活動にも呼びかけを広げ、「東北グリーフサポート」として活動を継続する。

2025年度については、会員が獲得した医療系助成金（「在宅医療推進のための多職種連携研修会」公益財団法人勇美記念財団 助成額 50万円）を財源として、以下の活動を行う計画である。将来的には協働で寄付のキャンペーンを行うといった自走に向けた道筋も見出していく。

- ・一般市民向けにグリーフサポート／ケアについて普及啓発し、活動への参加を促していくことを目的としたイベント「グリーフ・フェス」を2025年6月29日（日）10時～16時、せんだいメディアテーク1階を会場に実施する。参加団体で実行委員会を結成して進める。
- ・地域紙「河北新報」の協力を得て、参加団体の活動について情報発信する（連載企画想定）
- ・グリーフサポートマップ／Webサイトの改定。

8. 収支報告 【資料6】参照

(以上)

大切な方と お別れしたあなたへ

大切な方を失ってから、いかがお過ごしでしょうか？

病気、事故、災害、自死、死産・流産など、原因はさまざまですが、大切な方にまた会いたい、愛おしいという気持ちとともに、睡眠や食事の乱れ・感情の麻痺や激しい起伏・生きることへの苦しさ・孤独感などお持ちではないでしょうか。これらの反応は異常なものではなく、「グリーフ（grief）」と呼ばれており、喪失に対する自然な反応です。人はみな、揺れ動く気持ちに何とか対処し、生き抜いていこうと対応する力をもともと備えています。誰かに相談したり、同じような経験をした人とお話したりすることが、役に立つことがあります。

そのような場所を知ってほしいという想いから、グリーフ活動に取り組んでいる賛同者が集まり、このリーフレットを作りました。あなたの近くに、話ができる場所があることをお伝えできれば幸いです。

グリーフケアのマップを作ろうの会 一同



大切な方を
亡くした喪失に
寄り添う場所が
あります。



仙台・宮城

グリーフ サポート マップ



大切な方を失ったときに 安心して話せる場所があります。

誰かと話をしたくなったときは、私たちが思い出してください。
あなたの心が、いくらかでも軽くなることを願っています。



開催会場：マップ⑦

東北大学病院緩和ケア病棟 遺族会

東北大学病院緩和ケア病棟で療養された患者さんのご家族を対象に、遺族会を行っています。毎年夏頃に、対象のご家族にご案内を差し上げています。

連絡先

東北大学病院緩和ケア病棟
☎ 022-717-7986
(平日9時~17時)

開催会場：マップ⑧

岡部医院仙台 遺族外来

死別後の心身について、緩和ケア内科医師が対応し、グリーフへの適応をサポートします。原則として、当院の診療を受けた方のご遺族が対象です。完全予約制、自費診療、お電話で御予約ください。

連絡先

岡部医院仙台
☎ 022-341-2802
(平日9時~17時)

開催会場：マップ①

NPO法人 仙台グリーフケア研究会

大切な人を亡くした人は誰でも参加できる会を開催しています。病死、事故死、自死、災害等、亡くなった原因は問いません。安心して話せる場所でご遺族同士が静かに語り合える時間を過ごしませんか。

連絡先

☎ 070-5548-2186
✉ griefoffice@gmail.com

開催会場：マップ②

一般社団法人 日本グリーフケア協会

「悲嘆回復ワークショップ」では、あなたの悲しみを癒すためにワークショップを開催しています。1人で苦しむのではなく、同じ経験をしている仲間と共に過ごしてみましょう。一緒に流れるままに涙を流しましょう。

連絡先

日本グリーフケア協会
✉ info@grief-care.org

開催会場：マップ③

りぼんむすびの会

がんにより在宅医療を経験した遺族の集いの会です。亡くされた大切な方について語り合い、悲しみを分かち合う場です。同じ悩みを抱えた人が集まり、経験・気持ち・情報を分かちあうことで「生きる力」の回復を目指します。

連絡先

代表/橋本 真由美
✉ reborn.mu.k@gmail.com

開催会場：マップ④

グリーフサロン ほっとばーく

アート活動や分かち合いを通して、ご自身のもつグリーフと向き合う場所です。公園でのお散歩と合わせて、気軽に、どなたでも、興味のある方はお越しください。

連絡先

ライフカフェ/佐藤 悠子
✉ lifecafe.sendai@gmail.com

開催会場：マップ⑤

こもれびの会

大切な人を亡くされた体験をされた方同士の交流の場として「こもれびの会」を実施しています。どなたでも参加できる開かれた場所です。お菓子とお飲み物もご用意してお待ちしております。どうぞ安心してお越しください。

連絡先

NPO法人うみとそら
こもれびの会係
☎ 022-200-6315

開催会場：マップ⑥

哀しみを癒すサロン and new you

大切な人を失い、深い哀しみの中にいることでしょうか。苦しみや哀しみ、後悔、不安など、あなたが抱えている思いをわかちあう場所があります。一人で苦しまなくていいのです。この場所があなたの心を癒しますように。

連絡先

代表/岡田
☎ 090-2953-8931
(平日10時~17時)

開催会場：マップ⑥

流産・死産・新生児の子どもを亡くした家族の会 Withゆう

「withゆう」は周産期に子どもを亡くされた人たちが、同じ経験をした人達とともに話せる場・安らげる場を提供しています。亡くなった子どもと、お父さんお母さん、ご家族を結ぶ優しい場所です。一緒に少しずつ前進しませんか。

連絡先

代表/佐藤 由佳
✉ Wihhyou123@yahoo.co.jp

開催会場：宮城県内

病気の子どもたちや家族をサポート NPO法人アンドブライツ

活動の中のグリーフ部門として子どもを亡くした親やきょうだい児が参加できるイベントを開催しています。哀しみを抱えながら生きていく中で、素直な気持ちを吐き出せるような場を作っていきたいと思っています。

連絡先

✉ info@andbrights.org

開催会場：マップ⑦

東北大学病院緩和ケア病棟 遺族会

東北大学病院緩和ケア病棟で療養された患者さんのご家族を対象に、遺族会を行っています。毎年夏頃に、対象のご家族にご案内を差し上げています。

連絡先

東北大学病院緩和ケア病棟
☎ 022-717-7986
(平日9時~17時)

開催会場：マップ⑧

岡部医院仙台 遺族外来

死別後の心身について、緩和ケア内科医師が対応し、グリーフへの適応をサポートします。原則として、当院の診療を受けた方のご遺族が対象です。完全予約制、自費診療、お電話で御予約ください。

連絡先

岡部医院仙台
☎ 022-341-2802
(平日9時~17時)

電話相談

東北臨床宗教師会 宗教者による電話相談

あなたの心の重荷、宗教者に話してみませんか。臨床宗教師会の相談員があなたの悩み、ツライ気持ちをお聴きします。電話は毎月第2、第4水曜日、午後4時~午後8時
☎ 0120-783-643
※電話は一時間以内をめやすとします。

連絡先

東北臨床宗教師会事務局
✉ ht.rinshushikai@gmail.com

開催会場：マップ⑨

東北自死・自殺相談センター とうほくSotto

死にたいほど苦しい気持ちを抱えている方、孤独で誰にもツライ気持ちを話せない方にとって、あたたかな気持ちのつながりの場を提供したいと考え、私たちは「そっとの森」を毎月一回開催しております。

連絡先

☎ 070-1355-3204
(平日9時~17時)
✉ tohoku.sotto@gmail.com

開催会場：宮城県内

病気でこどもを亡くしたママのピアサポートグループ 空の輪~lien~

空の輪~lien~は病気でこどもを亡くしたママのピアサポートグループです。こどもの死を経験した人が心そのままにいられる居場所がほしいという想いで立ち上げました。こどもたちが繋いでくれたやさしい輪が広がっていきますように。

連絡先

✉ soranowa1220@gmail.com
📷 soranowa1220

各団体の詳細・
ご参加は
こちらから



仙台・宮城 グリーフサポートマップ 完成記念講演会

2024年11月10日(日曜日)午後2時から4時

会場

仙台市医師会館 2階ホール

宮城県仙台市若林区舟丁64-12 地下鉄:河原町下車、北出口より徒歩3分

(医師会館の駐車場は利用できません。公共交通機関をご利用ください)

対象

死別・喪失経験のある方

グリーフ、グリーフケアに興味のある方

参加無料
定員150名

大切な方とお別れで「グリーフ(悲嘆反応)」を生じるのは当然のことです。必ず乗り越えるべきものではなく、グリーフとともに生活や人生が続いていきます。死別・喪失を経験し、どうしたらいいかわからない時に、安心して話せる場所があります。心を支える素敵なグリーフケア活動をお知らせしたいとの思いから「グリーフサポートマップ」を作りました。

市民の皆様はもちろん、医療・介護・福祉等の専門職の方や、生きることを支えるすべての職種の方々に知っていただきたい取り組みです。少しでもご興味のある方は、どうぞお越しください。

プログラム

(敬称略)

活動報告 午後2時～2時50分

佐藤悠子 「グリーフケアのマップを作ろうの会」 「ライフカフェ」

佐藤由佳 「流産・死産・新生児の子どもを亡くした家族の会 Withゆう」

橋本真由美 「りぼん結びの会」

特別講演 午後3時～4時

「グリーフと共に生きる」

NPO法人 仙台グリーフケア研究会 理事長

せんだいG&Aクリニック 院長

滑川明男



主催:グリーフケアのマップを作ろうの会

助成:東日本大震災被災地の市民活動団体のネットワーク強化プログラム

(協力:武田薬品工業株式会社)

お問い合わせ先

佐藤悠子 (岡部医院仙台)

Tel: 022-393-8082

E-mail: lifecafe.sendai@gmail.com

仙台・宮城グリーフサポートマップ完成記念講演会 開催レポート

日時 2024年11月10日(日) 14:00~16:00

会場 仙台市医師会館 2階ホール(宮城県仙台市若林区舟丁64-12)

参加 80名(医療関係者、福祉関係者、NPO・市民活動団体関係者等)

内容 1. 開会 青山真帆(山形県立保健医療大学老年看護学領域教授)

2. グリーフケア/グリーフサポートの活動報告

佐藤 悠子 「グリーフケアのマップを作ろうの会」

「ライフカフェ」(自分自身の死生観や人生観を深める場所づくり)

佐藤 由佳 「流産・死産・新生児の子どもを亡くした家族の会 With ゆう」

橋本真由美 「りぼんむすびの会」

(がんにより在宅で大切な方を亡くした家族の会)



3. 特別講演「グリーフと共に生きる」

NPO 法人 仙台グリーフケア研究会 理事長

せんだいG&Aクリニック 院長 滑川 明男

4. 質疑応答~閉会



【主催】グリーフケアのマップを作ろうの会

【助成】東日本大震災被災地の市民活動団体のネットワーク強化プログラム

(協力: 武田薬品工業株式会社)

【協力】医療社団法人爽秋会岡部医院仙台, 東北大学緩和ケア看護学分野, 東北大学緩和医療科,
一般財団法人やまとコミュニティホスピタル 光が丘スペルマン病院

【後援】宮城県医師会, 仙台市医師会, 河北新報社, t b c 東北放送, 仙台放送, ミヤギテレビ,
k h b 東日本放送, エフエム仙台, 仙台 CATV 株式会社, ラジオ3 FM76.2MHz,
毎日新聞仙台支局, 読売新聞東北総局, 朝日新聞社仙台総局, 産経新聞仙台支局



<本レポートに関する お問い合わせ先>

佐藤悠子(岡部医院仙台)

Tel: 022-393-8082

E-mail: lifecafe.sendai@gmail.com

「仙台・宮城グリーフサポートマップ」勉強会・総会 開催レポート

日時 2025年3月2日(日) 14:00~16:00

場所 せんだいメディアテーク 7階会議室 (宮城県仙台市青葉区春日町2-1)

参加 15名(サポートマップ掲載団体、今後掲載を希望する団体の関係者等)

内容 1. 開会 佐藤悠子さん(岡部医院仙台)

2. 勉強会

(1) 活動報告

岡田美香さん(哀しみを癒すサロン and new you)

「死別の哀しみをわかちあう会」

木島祐子さん

(一般社団法人日本グリーフケア協会特級アドバイザー、精神看護専門看護師)

「悲嘆回復ワークショップの活動報告」

(2) 話題提供

青山真帆さん(山形県立保健医療大学老年看護学領域教授)

「グリーフに関する知見アップデート」

- ・遺族の精神的な健康とグリーフ・グリーフケアの定義
- ・病的な悲嘆・遺族の健康リスク
- ・グリーフケアの実際

3. 総会

①仙台・宮城グリーフケアのマップを作ろうの会 今年度の活動振り返り

目的 ・地域でグリーフサポートを行っている団体・個人の活動が、必要としている人に届くよう支援すること

・本会参加者の交流や情報共有により活動の質を向上させること

会員 ・グリーフサポートの活動実践者 ・本活動を支援したい者

・グリーフ、グリーフサポートに興味ある者

活動経緯 2024年6月以降、東日本大震災被災地の市民活動団体のネットワーク強化プログラム(日本NPOセンター、協力:武田薬品工業株式会社)の助成を受け、活動を実施。

2024年4月 任意団体として発足

2024年5月 情報交換会を開催

2024年8月 仙台・宮城グリーフサポートマップの発行

2024年9月 仙台・宮城グリーフサポートマップ Web版 公開

2024年11月 マップ完成記念講演会 開催

2025年3月 勉強会・総会 開催

マップ掲載団体 当初13団体。年度内に1団体追加となり計14団体。

発行部数 6,000部(総会時点)



<マップへの反応>

- ・こういった支える会があるのかと驚かれた方が多くいた。
- ・たくさんの人に知ってもらいたいという方が多くいた。中にはどこに置いてもらえるか考えて探してくれた方も。
- ・近くに必要としている方がいたら教えてあげたいという方が多くいた。
- ・県内でそれぞれ活動していた団体がまとまって一覧できることは必要な方にとっては自分で探す心身の労力が減りととてもいい。
- ・参加者、問い合わせが増えた。
- ・マップを渡した方のご家族で司法書士の方がいて、相続問題からグリーフに関する相談先がないかよく聞かれ困っていたそうでとてもマップ喜ばれました。同じ業界の方にも困っている方がいるとのこと。
- ・ペットロスの会がないか聞かれた。
- ・死別後のご家族が気になっていても、地域にどのようなサポート体制があるのか分からなかったが、map を紹介できる安心感がある（医療従事者）。

②今後の活動について

●名称について

対象エリアを東北に広げて「東北グリーフサポート」に変更する。

宮城以外の地域、団体数は少ないが、つながりを求める声は出ている。

オール東北で、町内会のようなゆるやかなネットワークにしていきたい。

●予算について

2025年度は「在宅医療推進のための多職種連携研修会」という建付けで、公益財団法人勇美記念財団から50万円の助成をいただいている。

●6月29日（日）のグリーフイベントについて

グリーフ／グリーフサポートについての普及啓発を目的に、せんだいメディアテーク1階を会場にステージ企画、アート企画、ポスター・チラシ展示といった内容を予定（10時～16時）。実行委員会形式で進めていきたいので、参加をお願いしたい。

●河北新報「わたしの視点から」への寄稿依頼

マップについて3月3日河北新報夕刊に掲載。さらに参加14団体の活動について別のコーナーで個別に掲載いただけることとなった。希望者は事務局まで。

●マップ（Web版）更新について 3月中に情報更新予定。

（以上）



<本レポートに関する 問い合わせ先>

佐藤悠子（岡部医院仙台）

Tel: 022-393-8082

E-mail: lifecafe.sendai@gmail.com